

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|---|---|----|-------|
| 報告番号 | 甲 第 3354 号 | 氏名 | 須藤 英隼 |
| 論文審査担当者 | 主査 小風 暁 教授 副査 角田 卓也 教授 副査 泉 美貴 教授 | | |
| <p>論文題名： 底つき体験がアルコール依存症治療の精神科外来通院継続に与える影響</p> <p>掲載雑誌名： 昭和学会雑誌 2022年 掲載予定</p> <p>アルコール依存症は、治療へ繋がりにくいことが課題とされており、飲酒による喪失の体験によって断酒に至る底つき体験が必要とされてきた。須藤らは、底つき体験を定義し患者の背景や外来治療継続への影響を検討した。2016年4月1日から2019年8月31日までに昭和大学附属烏山病院アディクション専門外来初診のアルコール依存症と診断された患者を対象とした。性別、年齢、他疾患併存の有無、同居人の有無、初診時の就労の有無、生活保護受給の有無、初診時の住所が世田谷区内か区外か、集団治療プログラム参加の有無、自助グループ参加の有無、初診後の当院入院の有無、外来治療継続期間、そして受診前の底つき体験の有無について調査した。底つき体験の有無で二群に分け各項目について単変量および多変量解析を、また外来治療継続に与える影響を検討するため Kaplan-Meier 法及び Log-rank 検定にて単変量解析、Cox 比例ハザードモデルにて多変量解析を実施した。様々な要因を考慮しても底つき体験の有無は外来治療継続に影響しなかった (P value=0.10)。治療には底つき体験を待たずに早期介入を積極的にすべきである。本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p> | | | |

(主査が記載)